

シンポジウム

# 現代スピリチュアリティの諸問題

2022年10月22日(土) 14:40-17:50 司会 奥山倫明 東洋英和女学院大学教授  
死生学研究所所長

## 発題1

伊藤雅之

いとうまさゆき

愛知学院大学

文学部宗教文化学科教授

### 21世紀のスピリチュアリティ文化 —コロナ禍での持続と変容—

#### 内容紹介:

1960年以降に発展したスピリチュアリティ文化は、21世紀になると現代社会の医療、心理、福祉・介護、教育などの非宗教領域にもますます浸透してきています。この講演では、おもにヨーガやマインドフルネスの展開に着目し、その歴史的変遷を概観します。また、コロナ禍において露呈したコロナ・ウィルスやワクチンをめぐる「陰謀論的スピリチュアリティ」の特徴についてもふれていきたいと思ひます。

#### ■プロフィール

1998年、米国ペンシルバニア大学大学院社会学博士課程修了。社会学博士(Ph.D.)。専門は宗教社会学。日本マインドフルネス普及協会理事、日本ポジティブサイコロジー医学会評議員。

#### ■主要業績

著書に『現代スピリチュアリティ文化論—ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』(明石書店、2021年)、『現代社会とスピリチュアリティ』(溪水社、2003年)、訳書に『宗教社会学』(マクガイア著、明石書店、共訳、2008年)、『現代人のためのヨーガ・ストラ』(メーレ著、産調出版、監訳、2009年)などがある。

## 発題2

橋迫瑞穂

はしきこみずほ

立教大学

社会学部他兼任講師

### スピリチュアリティとフェミニズムの〈あいだ〉 —妊娠・出産・育児をめぐる—

#### 内容紹介:

「スピリチュアル市場」において妊娠・出産や育児をめぐるコンテンツは根強い人気を誇っています。ただし、これらのコンテンツは全く新しいものではなく、80年代から見られるフェミニズムとスピリチュアリティの混淆のなかで育まれてきたものが、商業化・消費化して社会に顕在化したと捉えるのが妥当でしょう。本報告では、フェミニズムにおける妊娠・出産の位置づけに焦点を当てて、スピリチュアリティとの関係について検討します。

#### ■プロフィール

立教大学大学院社会学研究科博士課程修了。専門は宗教社会学、文化社会学、ジェンダーとスピリチュアリティ。ライトノベルやゲーム、マンガなどのサブカルチャーについても研究している。

#### ■主要業績

著書に『占いをまとう少女たち—雑誌「マイバースデイ」とスピリチュアリティ』(青弓社、2019年)、『妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ』(集英社新書、2021年)、共著に『RE-END 死から問うテクノロジーと社会』(塚田有那・高橋ミレイ編、ビー・エヌ・エヌ、2022年)などがある。

#### コメンテーター

碧海寿広(武蔵野大学教授)

大道晴香(國學院大学助教)

#### □オンライン開催

お申込みは死生学研究所HPから

□お申込み締め切り 10月19日(水) 17時

□先着100名様 □参加費 無料

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

#### お申込み



#### <予告>

◆第6回〈公開〉連続講座11月12日(土) 16:20~17:50 小松美彦(東京大学大学院総合文化研究科)